

【優秀賞】

「北方領土問題の解決に向けて」

七飯町立七飯中学校

2年 小石 颯祐

八月一五日の新聞に「墓参再開見通せず」という記事を見つけました。記事の内容は、ロシアのウクライナ侵攻が続き、日本とロシアの対話がなく、北方領土の元島民による墓参の再開が見えないというものでした。日本政府は四月に北方四島とのビザ無し渡航事業の当面見送りを発表。残念ながら墓参は三年連続で中止になり、その代わりに船上からの洋上慰霊だけが実施されました。元島民は人道目的の墓参の再開、北方四島にある共同慰霊碑を含む墓地公園の整備なども強く要望していますが、両国政府間では対話すらできない状況が現在も続いています。

僕は、「墓参にいけないのはご先祖様が悲しむのではないか」と思い、北方領土問題は、日本とロシア両国が心を開き、お互いに譲り合い、親睦を深めることが大切なのではないかと考えました。

ソ連が北方領土を占拠してから約七〇年がたち、ロシアの人たちにとっても北方領土が故郷となっているのも事実です。返還されたときに、今度はロシア側の島民の故郷を奪うことにはしたくありません。僕は両国民が悲しまない解決ができることを強く望んでいます。

ロシアのウクライナへの武力侵攻は、どんな理由があろうとも許されることはありません。日本は経済制裁という形でロシアの行動を非難しています。そのことがよりいっそう、両国間の距離を広げる結果につながっています。対話が進まないのも仕方のないことかもしれません。対話を再開させ、その状態を維持して行くにはどうすればいいのでしょうか。

対話のためにはお互いの国の歴史、文化、考え方を理解し合うことが大切です。国同士がお互いのことを勉強することも大事だと思います。

僕は先日北海道立美術館を見学する機会がありました。そこでアイヌの人たちの歴史や生活なども学ぶことができました。そして、もっとたくさんの人たちにも知ってもらいたいと感じました。悲しい歴史でもある差別や争いがあったことも知りましたが、お互いの文化や歴史を尊重する気持ちを持ち続けることで、対話をするができると思いました。

私たちはまず、ロシアという国を知ることから始めるべきではないでしょうか。今はインターネットや様々なメディア、SNSなどを正しく使うことで、より深い知識を得ることだってできます。

そして、これはロシアにも働きかけていくべきことです。私たち日本のことを正しく理解してもらう努力と行動をする。そして、文化交流や交換留学などの交流事業が盛んになれば、その中で北方領土問題に関心を寄せる人たちも増えていくはずですよ。お互いがグローバルな視点や考え方を共有することでお互いの国の政府をも動かすことができると思います。

北方領土問題を解決するためには、残念ながらもう少し時間が必要かもしれません。ロシア政府の官僚の中には、北海道自体がロシアの領土だと言い出す人もいるようで、その人達に今すぐに理解してほしいといっても難しいことなのかもしれません。

だからといって諦めるのではなく、しっかりと誤解を解く努力が必要だと思います。すべての国民がこの問題解決を強く望むこと、そして未来を担う子どもたちへの地道な教育活動と、ロシアとの対話に向けた出来る限りの行動を積み重ねていくことが、一日でも早い問題解決につながると信じています。